

# 広島市立大学学術リポジトリ

[第28巻]刊行規程、刊行規程に関する細則、執筆要領、書式の手引き、執筆者紹介、編集委員、奥付

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2023-01-18<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属:            |
| URL   | <a href="https://hiroshima-cu.repo.nii.ac.jp/records/14">https://hiroshima-cu.repo.nii.ac.jp/records/14</a> |

## 広島市立大学『広島国際研究』刊行規程

(刊行の目的)

第1条 広島市立大学国際学部（以下「学部」という）及び広島市立大学国際学研究科（以下「研究科」という）における学術研究の成果を発表するため、『広島国際研究』（以下「本誌」という）を刊行する。

(掲載内容)

第2条 本誌に掲載する研究成果は、国際研究とのかかわりを有する未発表の学術論文および研究ノートに限る。

(投稿資格)

第3条 本誌に研究成果を発表する資格を有する者は、主に学部・研究科の専任の教員、学生、および本学の非常勤講師、客員研究員などとする。

第4条 同一の筆者が同一の巻号に投稿できるのは論文あるいは研究ノートのいずれか一編とする。

(刊行)

第5条 本誌は、原則として毎年度1回刊行するものとし、刊行は年度末までとする。

(委員会)

第6条 本誌の編集、刊行を行うため、『広島国際研究』編集委員会（以下「委員会」という）を置く。

2 委員会の組織及び運営については、別に定める。

第7条 この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成6年7月27日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年6月19日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年7月20日から施行する。

附 則

この規定は、平成30年7月1日から施行する。

附 則

この規定は、令和4年11月1日から施行する。

## 広島市立大学『広島国際研究』刊行規程に関する細則

広島市立大学『広島国際研究』刊行規程第6条の規程により、次のとおり細則を定める。

### 1 投稿手続き

- (1) 『広島国際研究』に投稿しようとする者は、毎年度2月末日までに、所定の投稿申込書を国際学部分室に提出しなければならない。
- (2) 原稿の提出締切日は、毎年度4月15日とする。
- (3) 原稿の提出に当たっては、必ず打ち出した紙の原稿と電子メディア(CD, USBメモリなど)を封筒に入れ、所定の論文または研究ノート投稿用紙に必要事項を記入し、封筒に貼り付けて国際学部分室に提出するものとする。

### 2 執筆要項について

原稿の執筆要項については別に定める。

### 3 論文および研究ノート審査について

- (1) 投稿論文および研究ノート審査については、審査により、掲載の可否を決定するものとする。
- (2) 審査は、別に定めるところにより、行うものとする。ただし、依頼論文についてはこの限りでない。

### 4 刊行規模及び体裁

- (1) 刊行規模については、編集委員会がその都度決める。
- (2) 体裁は、B5判とし、原則として横2段組とする。ただし、研究分野によっては、縦2段組とすることができる。

### 5 校正等について

- (1) 編集に当たり、編集委員会がその必要があると認めるときは、執筆者に原稿の書き直し、縮小等を求めることができる。
- (2) 著者校正は、原則として、1回とする。なお、校正の際の訂正加筆は、植字上の誤りに限るものとする。

### 6 印刷部数について

印刷部数は、発行の都度、必要に応じて編集委員会で決定する。

### 7 配付について

『広島国際研究』は次に掲げるところにより、無料で配付するものとする。

- ① 執筆者 本冊1部
- ② 国際学部・国際学研究科の専任教員及び本学の非常勤講師で配布を希望する者 本冊1部
- ③ 国際学部・国際学研究科の学生及び国際学研究科院生で配布を希望する者 本冊1部
- ④ その他編集委員会で認めた者及び機関

### 8 ウェブ上での公開とその許諾について

『広島国際研究』は、編集委員会が認める手段でウェブ上に公開される。投稿申込書の提出をもって、投稿論文がウェブ上に公開されることに関して著者が許諾したものとする。

附 則 この規程は、平成6年7月27日から施行する。

附 則 この規程は、平成14年6月19日から施行する。

附 則 この規程は、平成20年11月19日から施行する。

附 則 この規程は、平成23年7月20日から施行する。

附 則 この規程は、平成30年7月1日から施行する。

## 『広島国際研究』執筆要領

本執筆要領は、「広島市立大学国際学部『広島国際研究』刊行規定」に基づき、本誌の形式的統一と効率的な編集・刊行を図るため、原稿の書式・作成等に関し基本事項を定めるものである。

1. 使用言語  
日本語または英語。
2. 論文ページ数  
刷り上げりの上限は、図表、写真などを含み、16ページ（邦文2100字/ページ、英文650語/ページ）とする。
3. 文字数  
邦文33,600文字、英文10,400語を上限とする。
4. 論文・研究ノートともに、表題、著者名、英文要旨、目次、本文、参考文献、必要に応じて謝辞、注、図、表、写真で構成するものとする。
5. 原稿の作成
  - (1)原稿は、原則として横書きとし、パソコンを使用する。
  - (2)用紙サイズはA4判を用い、余白を天地左右25ミリとり、邦文・英文ともに1ページあたり30行とする。
  - (3)邦文原稿の場合には、英文表記による表題と執筆者名を付し、邦文表記の後に掲載する。
  - (4)目次は、本文の前に掲載する。
  - (5)注及び引用・参考文献は、原則として本文の後、注、引用・参考文献の順に掲載する。
  - (6)図表、写真等には、番号を付し、本文中に挿入位置を明示したうえで、完成原稿とは別にA4判用紙に印刷する。
  - (7)上記以外の書式の詳細に関しては、「『広島国際研究』書式の手引」を参照。
6. 論文要旨  
邦文原稿・英文原稿ともに、執筆者の責任において英文要旨を作成し、目次の前に掲載する。  
英文要旨は200語程度とする。
7. キーワード抽出  
論文等にはキーワードを5語程度抽出し、要旨の後に記載する。
8. 原稿の提出方法  
下記について、いずれも投稿用紙を貼り付けた封筒に入れ、編集委員長宛に提出する。
  - ・上記の完成原稿1部とそのコピー1部の計2部（いずれも白黒の片面印刷）。
  - ・完成原稿と投稿用紙のデジタルデータを記録したCD / USBメモリなどの記録媒体。
  - ・投稿用紙のコピー1部。

## 『広島国際研究』書式の手引き

本誌への投稿者は、次の書式に従って執筆して下さい。

### 1. 句読点

本文中及び注の文中における句読点は点（、）と丸（。）とし、邦文ではコンマ（,）とピリオド（.）は用いない。

### 2. 文章及び章、節、項

- ・文章は常用体、新かなづかいによるものとする。
- ・本文、注、参考文献等のフォントはMS明朝、英字はTimes New Roman、サイズは12ポイントを用いる。
- ・章、節、項の見出し表記は、以下のように統一する。

《章 I. II. III. …》《節 1. 2. 3. …》《項 (1) (2) (3)…》《目 (a) (b) (c)…》

### 3. 引用

- ・引用は、本文中又は注の文中に、丸括弧に入れて、著者名、刊行年：頁数を記す。

例 中村（1951:21）によれば

・・・とされている（Malinowski 1972:304）。

- ・同一文献から複数回引用する場合も「Ibid.」、「上掲書」は用いず、上記の表記を繰り返す。
- ・著者が3名以上の場合には、筆頭著者名の後に「他」、「et.al.」を付す。

例 （中村他 1951:21）によれば

…とされている（Malinowski, et.al. 1972:304）。

### 4. 注

- ・注は後注とし、本文中にはアラビア数字の通し番号（1, 2, 3…）を付す。通し番号の位置は、各文末の右肩、句点の前とする。

例 「さらなる研究が必要である<sup>5</sup>。」

5 詳しくは、中村（2005）4章を参照のこと。

- ・MSWordを用いる場合、脚注機能は使用しない。手動によって本文中に通し番号を挿入、文末に注記を掲載する。

### 5. 人名表記

本文および注の文中における姓と名の順序は、原則としてそれを使用する国/地域の慣行に従う。

### 6. 参考文献

参考文献は、原則として下記の要領で作成し、論文末（注の後）に一括掲載する。MSワード等のぶら下げインデント機能を使用する場合は、邦文2字分をインデントする。

(1)文献の配列は、日本語文献は著者姓の五十音順。欧語文献はアルファベット順とする。

日本語文献と欧語文献のリストは分けて掲載する（その他の言語も、原則分けて掲載。ただし著者との協議により、委員会が判断するケースもある）。

(2)訳書を用いた場合、原著名などを（）内に併記する。

(3)文献データの記載順は、著者姓・著者名（原則としてフルネーム）、刊行年、論文名、書名/誌名、巻、号、掲載ページ、出版社（洋書の場合、出版地：出版社）とする。

例：単行本

松田浩道（2020）『国際法と憲法秩序：国際規範の実施権限』、東京大学出版会。

Dimova, Rozita (2021). *Border Porosities: Movements of People, Objects, and Ideas in the Southern Balkans*. Manchester : Manchester University Press.

論集等の掲載論文

蒲生正男（1949）「甘みの民俗・社会」、大間知篤三・岡正雄・桜田勝徳・関敬吾・最上孝敬（編）、『日本民俗学大系』、7-21頁、平凡社。

Inoue, Yasuhiro (2017). “Media Use: Japan” in Patrick Roessler, ed, *The International Encyclopedia of Media Effects*, pp.1172-1181, Oxford, UK and Malden, MA: Wiley-Blackwell.

雑誌等の掲載論文

内村俊太（2015）「16世紀スペインにおける修史事業」、『上智大学外国語学部紀要』、第50号、201-226頁。

Cummins, Tom and Joanne Rappaport (1998). “The Reconfiguration of Civic and Sacred Space: Architecture, Image, and Writing in the Colonial Northern Andes.” *Latin American Literary Review*, 26(52), pp.174-200.

ウェブサイト（以下の例を参考に最終閲覧日を記載すること。）

出入国在留管理庁「令和2年における難民認定者数等について」[https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/07\\_00003.html](https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/07_00003.html)（2022年9月1日閲覧）。

## **Hiroshima Journal of International Studies**

The Hiroshima Journal of International Studies publishes empirical and theoretical papers in the general area of international studies. Preference will be given to papers addressing issues in political science, economics and management, and cultural studies, including language studies and education. Contributions of an interdisciplinary nature are especially encouraged.

All papers submitted must not be under consideration by any other journal and will be subject to a blind review process. The Journal is published annually and all papers must be submitted by April 15 of the year of publication. Authors should inform the editor of their intended submission by the last day of February.

The editorial committee encourages all staff of the Faculty of International Studies and the Graduate School of International Studies to disseminate their research findings via this journal.

Any researcher interested in contributing to the Journal should contact and request the General Guidelines for a paper from the following: Faculty of International Studies, Hiroshima City University, 3-4-1, Ozuka-higashi, Asaminami-ku, Hiroshima, 731-3194, Japan.

Tel: (082)830-1505

E-mail: [kyoken@m.hiroshima-cu.ac.jp](mailto:kyoken@m.hiroshima-cu.ac.jp)

## Hiroshima Journal of International Studies General Guidelines

This guideline determines the format and the style of the manuscripts in order to assure consistency and smoothness in editing and publications.

1. Language  
Japanese or English
2. Number of pages and words  
The maximum number of pages is 16 in final journal page format, including tables, photographs, etc. The maximum number of words is 10,400 (650 words/page).
3. Submission of Manuscript
  - (1) Manuscripts must be typed throughout. According to the fields of research, manuscripts may be typed vertically.
  - (2) The manuscript should be double-spaced on A4 paper, approximately 80 characters per line. The final version of the manuscript, one copy and the electronic data must be submitted.
  - (3) For detailed regulations on the format, please refer to 'Guidelines for Citations, References, and Style'.
  - (4) Titles and names of the authors must also be written in English for the Japanese manuscripts and in Japanese for the English manuscripts.
  - (5) Notes, references, and appendices are placed at the end the manuscript.
  - (6) Tables, figures, etc. Should be numbered and have brief titles. Indicate locations in the text to insert tables and figures. Submit tables and figures on separate sheets.
4. Abstract of Paper  
The manuscript must be accompanied by an abstract (approximately 200 words in English). The abstract should be written in English for both English and Japanese manuscripts.
5. Indexes  
Select approximately 5 important keywords either in English or Japanese.



## Hiroshima Journal of International Studies Guidelines for Citations, References, and Style

Those submitting papers should adhere to following guidelines:

1. **Table of Contents:** A Table of Contents should be inserted before the body of the paper.
2. **Punctuation and Spelling:** Standard rules of punctuation, including commas, periods, semicolons, and colons should be followed. Either American or British English spelling is acceptable, but the two should not be mixed in the same paper.
3. **Numbering of Sections:** Headings and sub-headings should be numbered according to the following system:  
 Major headings: I.II.III First sub-headings: 1.2.3 Second sub-headings: (1) (2) (3)  
 Third sub-headings: (a) (b) (c)
4. **Citations:** Citations of references within the text and notes should include within parentheses the date of publication and the page number if appropriate, as follows:  
 e.g. According to Malinowski (1972: 304),...  
 It has been reported that (Malinowski,1972: 304).  
 In cases where the same source is repeated, abbreviations like *ibid.*, *op. cit.*, *loc. cit.* should not be used. Instead, the above format should be repeated. In citations for more than two authors, et al. should be used after the first author's name.
5. **Notes:** Notes should be numbered sequentially throughout the text and inserted at the end of the text, rather than at the bottom of each page. Citation references should be included in the text, not in the notes. The notes should be explanatory in nature.
6. **Personal Names:** Personal names should follow the order of the language of origin. Thus, Japanese names in English should be written in the Japanese way, family name followed by given name.
7. **Bibliography:** A reference list should be included at the end of the paper, following the guidelines below.
  - (1) References should be listed alphabetically.
  - (2) The original title of a translated work should be included in parentheses.
  - (3) References should be listed in the following order (see examples in number (7) below):  
*Book:* Author's family name, author's given name or initial(s). year of publication. title of book. city of publication: publisher.  
*Journal article:* Author's family name, author's given name or initial(s). year of publication. title of article, name of journal, volume number, pages.  
*Article in book:* Author's family name, author's given name or initial(s). year of publication. title of article, editor of book, title of book. city of publication: publisher, pages.
  - (4) Article titles should be placed in quotation marks. Book and journal titles should be in italics.
  - (5) For reprinted books or versions other than the original, the original publication date should be indicated in brackets.
  - (6) For well-known journal, the city of publication and publisher do not need to be included.
  - (7) Examples of the required format are as follows:  
 Dwyer, Kevin (1982). *Moroccan Dialogues*. Baltimore: Johns Hopkins University Press.  
 Gussler, Judith (1973). "Social Change, Ecology, and Spirit Possession among the South African Nguni," in Erica Bourguignon, ed., *Religion, Altered States of Consciousness, and Social Change*, pp. 88-126, Columbus: Ohio State University Press.  
 Stoller, Paul (1984). "Eye, Mind, and Word in Anthropology." *L'Homme* 24(3-4): 91-114.  
 Stoller, Paul and Cheryl Olkes (1987). *In Sorcery's Shadow*. Chicago: University of Chicago Press.

## 『広島国際研究』第28巻

### 執筆者紹介

- 秦 野 貴 光 (本学国際学部講師)  
太 田 育 子 (本学国際学部教授)  
吉 田 晴 彦 (本学国際学部教授)  
大 庭 千恵子 (本学国際学部教授)  
武 田 悠 (本学国際学部准教授)  
高 久 賢 也 (本学国際学部准教授)  
斎 藤 祥 平 (本学国際学部准教授)  
井 上 泰 浩 (本学国際学部教授)  
ウルリケ ヴェール (本学国際学部教授)  
湯 浅 正 恵 (本学国際学部教授)  
寺 井 里 沙 (本学国際学部准教授)  
原 雅 樹 (本学国際学部講師)  
藤 原 優 美 (本学国際学部講師)  
重 田 美 咲 (本学国際学部准教授)  
山 本 晋 也 (周南公立大学経済学部准教授)  
高 山 大 心 (本学国際学研究科博士前期課程1年)

## 編集委員（○印：委員長）

- 井 上 泰 浩（教授）  
齋 藤 祥 平（准教授）  
重 田 美 咲（准教授）  
福 本 昌 之（教授）  
山 口 え り（准教授）  
吉 江 貴 文（准教授）  
李 玲（准教授）

### 編集後記

国際政治学、欧州安全保障論など、覚えている限りの（少なくともテレビに出演していた）専門家、研究者は、ロシアがウクライナに侵攻、侵略戦争を「実際にすることはないだろう」と語っていた。私自身も素人ながらロシアがウクライナ国境に兵力を集めていたことを政治的な駆け引きかブラフぐらいにしか思っていなかった。

2022年2月24日は、永遠に記録に残る日となった。何もできないことに無力感を感じる日が続いたが、『広島国際研究』は査読論文を掲載するだけが役割ではない、研究者ができることは自らの知見に基づいた分析や見解を出すことしかない——そう思った。

国際学部の研究者に声をかけたところ、非常に幅広い専門分野と切り口の論考が10篇も寄せられた。それが、この28巻の冒頭特集だ。ひとつの学部でこれほど幅広い考察を記せる研究者を擁している学部は数少ないはずだ。

特集名は「2022年からウクライナ・ロシア情勢を考える」とした。そして、「ウクライナ・ロシア情勢」を何と呼ぶのかについては、それぞれの執筆者の判断にゆだねた。「侵攻」、「軍事侵攻」「ウクライナ侵略」「侵略戦争」「戦争」——専門分野や個人の見解によってこのように異なる。

さて、特集は「将来、2022年は歴史の大きな転換点のひとつとして語られる」と切り出した。すでに人類の歴史に大きく、深刻で、いたたまれない記録を刻んでいる。しかし一方で、この先どのようなことが起こりうるのか、どれほどの犠牲者がでてしまうのか。始まりが予想できなかったように、展開もそして終止符（あるいは休止符）もまったく見通せない。

『広島国際研究』が刊行される予定の2022年末にはどうなっているのだろうか。  
編集委員会委員長 井上泰浩

2022年12月28日発行

編 集 広島市安佐南区大塚東3-4-1  
広島市立大学国際学部・国際学研究科  
『広島国際研究』編集委員会  
電話 082(830)1505

発 行 者 広島市安佐南区大塚東3-4-1  
広島市立大学国際学部・国際学研究科  
学部長・研究科長 金 栄 鎬  
電話 082(830)1505

印 刷 者 株式会社ニシキプリント  
電話 082(277)6954